

社団法人私立大学情報教育協会

平成 21 年度 第 2 回 CCC 体育学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時： 平成 21 年 7 月 23 日（木） 午後 5 時から午後 7 時まで

II. 場 所： 私情協事務局会議室

III. 出席者： 鈴木委員、手塚委員、田附委員

井端事務局長、事務局山野上、森下

IV. 検討事項：

1. 今後の会議の記録について

事務局から、今後の検討事項が専門的になることを踏まえ、委員が交代で議事記録をとることが提案されたが、議事を 3 名の委員で検討するにあたり、うち 1 名が記録に集中することは議論を深めるには好ましくないとの意見が出て、従来通り、事務局で記録をとり、その上で各委員が加筆修正を行って議事記録とすることとなった。なお、そのまめは、委員で交替して担当することになった。今回（7 月 23 日）の記録担当は田附委員となった。

2. 学士力の到達目標詳細化について

前回までの議論で下記の学士力の 4 項目について、①と②は前回概ね案が出たので、③と④について検討した。

- | |
|---|
| <p>① 身体運動を通して、健康の維持増進の重要性を学術的に理解できる。</p> <p>② 身体を動かす喜びを実感し、個人および社会の生活の質の向上に役立てることができる。</p> <p>③ 身体活動・表現を通して、コミュニケーション、リーダーシップの向上に役立てることができる。</p> <p>④ スポーツ競技に関する知識・技能を習得し、スポーツの発展に役立てることができる。</p> |
|---|

学士力の到達目標詳細化は、前回案の重複内容の整理、この到達目標の対象を学生とすることの確認に加え、今後のこれらの項目に関する学生への調査を前提に検討を行ったところ、下記のようにまとまった。なお、検討の主な内容は次の通りであった。

- ・ ①について、「身体運動の効果を体感できる」とするのは、本項が理論を中心としたものであることから、「重要性を理解できる」に改める。
- ・ 免疫、抵抗力について、自己評価が難しい。社会の生活の質向上を意識した内容であったが、②については「心身ともに充実したライフスタイルを送る」程度に内容を改める。
- ・ ③については、身体活動すなわち体育を取り上げたもので、そこには教育的な内容が含まれる。異質な人同士が認め合う協調性などを養うことができる。
- ・ ④については、①の内容を競技に特化したものとしてとらえればよい。

① 身体運動を通して、健康の維持増進の重要性を学術的に理解できる。

- ・ 身体運動の効果を理解できる。
- ・ 身体運動の効果を数値的（筋力、心肺機能、平衡性、体脂肪率、骨密度等）に把握し、変化を自己評価できる。

- ・ 他者の身体運動の効果を評価できる。
- ② 身体運動の効果を体感することにより、心身ともに充実したライフスタイルを送ることができる。
- ・ 生活の中に運動を積極的に取り入れることができるようになる。
 - ・ 運動により集中力を高め、それを持続できる。
 - ・ 日常生活に運動を取り入れることにより、ストレスを発散することができる。
 - ・ 運動を取り入れることにより、健康な体づくりに取り組むことができる。
- ③ 身体活動・表現を通して、コミュニケーション、リーダーシップの向上に活用できる。
- ・ 集団の中でスポーツや運動を通じて、周囲の人と協調し、一体感を得ることができる。
 - ・ 自分の考えを伝え、周囲の人の意見を聞きとることができる。
 - ・ 皆の考えをまとめるために、集団としての意思決定に関与できる。
- ④ スポーツ競技に関する知識・技能を習得し、スポーツの振興・普及に活用できる。
- ・ スポーツ科学的知識を身につけ、競技力向上に取り組むことができる。
 - ・ 競技スポーツを社会との関わりで考えることができる。

3. 今後の進め方

今回は、上記 2-2) でまとめた案について、その評価方法の検討を行うことになった。この検討にあたり、8月24日(月)を締め切りに、各委員が評価方法の素案を事務局まで email で送ることになった。なお、次回の委員会は、8月27日(木)16時から開催することになった(この開催日時については、その後、再調整となり9月28日となった)。